

2026 年 7 月 29 日

報道機関 各位

「拾うだけでは、海は守れない」 長崎大学生が地域と挑む“海ごみの地産地消” ～海洋プラスチックを活用したタイルづくりワークショップを開催～

長崎大学経済学部社会イノベーション領域では、地域企業や団体と連携し、地域課題の解決に取り組む実践型ゼミ活動を実施しています。その一つであるイノベーション実践ゼミ（指導教員 西村宣彦教授）では、海洋プラスチックごみ問題に着目し、長崎市に本社を置く兼子漁具株式会社をはじめとする地域企業・団体と連携しながら、課題解決に向けた活動に取り組んでいます。

活動のきっかけは兼子漁具株式会社の社長・兼子修治氏へのインタビューでした。漁具の製造・販売を行う傍ら、長年にわたり海岸清掃活動にも取り組まれている兼子氏から、「多くのボランティアの善意に支えられて海岸清掃を続けているが、その活動だけでは海ごみ問題の根本的な解決にはならない。また、回収された海ごみの多くが焼却処理されるが、運搬や焼却の過程で新たな環境負荷も生じる」と話を聞き、地域が抱える課題について知る機会となりました。

そこで本実践ゼミでは、「**海ごみに新たな価値を生み出すことで、海を守る人を増やせるのではないか**」と考え活動を開始しました。海洋プラスチックを資源として循環させ、その価値を海岸清掃活動へ還元する仕組みづくりについて構想を重ね、「**長崎で回収された海ごみを長崎で活用する**」という“**海ごみの地産地消**”の実現を目指して実証的な取り組みを進めています。

この取り組みの一環として、令和 8 年 8 月 11 日（火）に株式会社チョープロで、小学生以上を対象とした海洋プラスチックを活用したタイルづくり体験イベント「ヒミツの海×LABO2」を開催します。参加者は海洋プラスチックごみの現状について学びながら、長崎県内で回収された海洋プラスチックをタイルの骨材として再利用し、タイル制作を行います。制作したタイルは JR 道ノ尾駅リニューアルプロジェクトで活用する予定です。参加者が自ら制作したタイルが地域に残る体験を通して環境問題を「自分ごと」として考え、地域資源の循環や持続可能な社会について学ぶ機会を創出します。

本プロジェクトは、西村ゼミの学生を中心に、兼子漁具株式会社、社会福祉法人ながよ光彩会、株式会社 INTERMEDIA、ESSH 株式会社など地域企業・団体と連携しています。



【写真左：海洋プラスチックを活用したタイル】

【写真右：海岸清掃の様子】

【イベント概要】

■イベント名

「ヒミツの海（Sea）×LABO 2 ～みんなでつくる道ノ尾駅～」

■日時

令和8年8月11日（火・祝）

【第1部】10:00～11:30 【第2部】12:00～13:30 【第3部】14:00～15:30 ※各回定員制

■会場

株式会社チョープロ（〒851-2127 長崎県西彼杵郡長与町高田郷 62 番地 1）

■対象

小学生以上（小学生は保護者同伴）

■参加費

無料

■定員

各回 90 名

■内容

長崎県内で回収した海洋プラスチックを活用し、JR 道ノ尾駅に設置予定のタイルを制作する体験型ワークショップ

■協力

- ・兼子漁具株式会社
- ・社会福祉法人ながよ光彩会
- ・株式会社 INTERMEDIA
- ・ESSH 株式会社

■協賛

株式会社チョープロ

■タイル設置予定

JR 道ノ尾駅（イベント終了後、約 1 か月以内に設置予定）

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学経済学部 イノベーション実践ゼミ（西村ゼミ）「ほうれん草」

担当：津曲 壮汰（4年生）

TEL：080-3370-1718 / Mail：houdenso.nisimura@gmail.com